
MAY-YA スーパーLIVE!

怠惰

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

MAY-YA スーパーライヴ！

【Zコード】

N9134C

【作者名】

怠惰

【あらすじ】

人気アーティストMAY-YAのメジャーデビューから10年目となる年に行われた全国ライブツア。後に伝説としてファンの間に語り継がれるようになる、そのツアーファイナルの顛末をここに。

場面はとあるライブ会場。観客席には女性を中心としたファンたちが隠し切れぬ興奮を顔に浮かべて開演の瞬間を待っている。

と、スポットライトの光条がステージ上の闇を切り裂き、ギターを肩から下げる、首にコルセットを嵌めた一人の男の姿を照らし出す。瞬間、怒号の如き歓声が会場を激震させる。

キヤー！ メイヤー！ カッコイイー！

全国ツアー、その初日の幕開けである。

ファンのみんな、今日は僕のライブに来てくれてどうもありがとうございます。今日という日が皆にとつて幸せな一日になるよう願つておるよ。ところで、曲に入る前に一つ話しておくことがあるんだ。うん、一旦見て分かったと思うけど、実は首を怪我しちゃったんだ。その事について少し触れておこうと思つ。

それは昨日のことなんだけど、僕はデパートに行つたんだ。今日はライブ初日だし、景気づけにワインでも買ってメンバーの皆と飲もうかと思つてね。

その後、エレベーターに乗つた時になんとなく屋上のボタンを押したんだ。本当に氣まぐれでね。

そこはよくある子供用の小さな遊園地みたいな場所になつてたんだ。それで僕も子供の頃が懐かしくなつてね、パンダに乗つてみたんだ。百円入れると音楽が流れて動き出すやつだ。

跨がる、ハンドルを握る、硬貨を入れる。音楽が流れ出す、でもパンダは微動だにしない。

大人だから重くて動かないのかな、と思つて降りようとしたんだ。そこで後ろから衝撃。

首がガツクーンとなつたと思つたら激痛。思わずシャウトしちゃうくらいの激痛。

首を押さえて振り向くと、虎に乗つたガキがニヤニヤしながら見つけてる。ニヤニヤしながらガンガンぶつかってきてる。それで思わず手が襟元に伸びて……おっと、そろそろ曲に入らうか。それじや聞いてください。今日の一曲は、『空を舞つた少年』。

ありがと、今日はみんな凄くノリがいいね。最高のライブになりそうだよ。

ええと、それでどこまで話したつけ？ ああ、デパートまで。その続きだね。

その後、家に帰つた後も首の痛みが取れなかつたんだ。大事なライブ前だし、何かあつては大変と思つて医者に診てもらつたんだ。それで近所の小さな整骨院に行つたんだけど、それがまた酷かつた。僕が一通り症状を説明したら、僕を俯せに寝かせてから取り敢えず少し触つてみますね、つて言つて首筋を触り始めたんだ。

ここは痛みますか、いえ大丈夫です。ここはどうですか、少し痛みます。ではここは、痛いです先生凄く痛いです。じゃあこつちは首がゴツキーンと鳴つたと思ったら激痛。思わずエア・男子100

メートルバタフライ決勝しちゃうくらいの激痛。

涙目で振り向くと、白衣着た先生がニヤニヤしながらじつ見てる。ニヤニヤしながらカルテになんか書いてる。

先生は『めん手が滑つた、って一応謝つてくれた。ニヤニヤしてたけど。

それで結局首の様子はどうなんですかって聞いたんだ。そうしたらその医者、何て言ったと思つ?

よく分かりませんのでもつと大きな病院で診てもらつて下さいって。紹介状書きますから、つて。ニヤニヤしながら。

それで外に出たら、会計のお姉さんが紹介状出して一万円になります。

思わず先端が鉄で出来てる頑丈そうな傘を持つて診察室に乗り込んで……え? 次の曲? もうそんな時間?

それじゃ一旦歌に入るよ。セカンドシングルから、『トレパネーション』。

この歌のタイトルのトレパネーションっていつのは、ドリルとかを使つて頭蓋骨に穴を開ける凄く危ない手術のことだよ。真似しないでね?

ところで、どうでもいいけど首が動かないから水が飲みにくいけれどこれ外していい? 駄目?

まあいいや。続きだけど、その後紹介された大学病院に行つたら検査の後でムチウチって言われたんだ。

もうびっくりしたよ。次の日からツアーが始まるのにいきなりそんな事言われてさ。

必死に説得してライブの許可は貰つたんだけど、あまり激しい動きはしないように厳しく注意されたよ。

ちょっと遅かったよね。

それであ、コルセットを付けて家に帰つたんだ。すると、家の前に数台のバイクと車が並んでてね。

バンドの皆のだと、一目で分かつたけど、どうしてうちに来てるんだろう。そう思いながらドアを開けたんだ。

アルコール臭。酒盛りしてやがったよ。僕抜きで、僕の家で、僕のワインセラーからお気に入りを勝手に引つ張り出して。

その時点ですritchが入りかけたけど、なんとか我慢したよ。だって十年以上付き合つてきた仲間だしね。多少はこういう風に無遠慮になるところがあつても仕方ないとthoughtだ。

で、深呼吸して気持ちを落ち着かせてたら後ろからガツツーン。視界がグラッとしたのと同時に激痛。思わず三途のリバーサイドでコーラン唱えながら胸元で十字を切っちゃうくらいの激痛。リアルに泡を吹きながら振り向くと、酒ビン持つた男がニヤニヤしながらこっち見下してゐ。ニヤニヤしながらスルメくつちくつちやしてゐ。ワイン飲みながら何故かスルメ。

メイヤなにそれ、新しいアクセ？ ダサくね、デカイし安っぽいし。ニヤニヤしながらそんなこと言つてんの。

お前コルセットも知らないのか、そう言おうとしたら他のメンバーも僕が帰つてきたことに気付いた。

で、そいつら僕の姿見てグラグラ笑い出してさ。

メイヤさんなんすかそれ、新しいギャグ？（笑）とか、それ明日は付けないで下さいねwwwマジありえないつすからwwwwwwとか言つてんの。

もう馬鹿。どうしようもない馬鹿だらけ。

いいかお前ら、これは首を怪我した時に付ける物で、つて言いかけたらまたガツツーン。

倒れた上から次々ガツツーンガツツーン。なんかこれ防御力高そうつすね、ニヤニヤニヤニヤ。完璧出来上がつてたね、あいつら。

その間も他の奴らは次々ワイン開けてんの。一本何万もするのを。一口飲んでは放り投げて。ニヤニヤしながら。ニヤニヤ。ニヤニヤ。そうしたら僕もなんだかすっごく楽しくなってきてね。とりあえずまず最初に上のやつを引きずり倒して動かなくなるまで一通り殴打した後、転がつたコルク抜きを拾つて残りの一人を……ああ、また話が長くなつたね。それじゃ次の歌に行こうか。今回のツアーのために書き下ろした新曲、『樹海に消えた演奏家たち』、聴いてください。

その直後に会場に乗り込んできた警察を、MAY-YAは両手に持つたギターとマイクスタンドを華麗に振り回して撃退。

更に応援要請によって駆け付けた機動隊をも蹴散らし、会場の半径1キロに緊急警戒態勢が敷かれるという非常事態に発展。

そうして、そのライブは一夜にして伝説となつた。

(後書き)

鞭打ち症になつた際に首に付ける器具ですが、ポリネットとかソフトカーラー、頸椎カーラーなど色々呼び方があるようです。

私はコルセットと呼んでいたので作中ではそうさせていましたが、まさにトリビアル（どうでもいい）。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9134c/>

MAY-YA スーパーLIVE!

2010年10月15日21時20分発行